

令和3年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	授業には前向きに取り組む生徒が多い。大部分の生徒は課題に対して自分の考えをもち表現することができる。ただ、本文中の記述を手がかりにする意識が希薄だったり、根拠を明確にして自分の意見を述べるスキルが身についていないかあったりする。話し合い活動は、それぞれの意見を述べて終わり、というパターンが多い。他者の意見を参考に思考を深めたり、批評し合う活動となるよう指導したい。集中力が続かない生徒、意欲が高まらない生徒への支援も大きな課題の一つである。	漢字・語句・音読などの反復練習に重点を置き、基礎学力の定着を図る。また、主体的に授業に取り組ませるため、学習の目標を明示し意識させる。「読むこと」では、表現方法の効果、構成の視覚化、要約などを繰り返し演習し、読み取りのポイントをつかませている。また、小グループでの意見交換や話し合いの場を多く取り入れ、自分の考えを深めて表現することができるよう授業形態を工夫していく。	学習目標と観点別評価規準をふまえて、自分が身につける力を具体的にイメージできる生徒や、他者の意見を取り入れて自分の考えを深めていく意識をもつ生徒が増えてきた。ただ、授業に対して受け身の生徒も多い。反復練習の重要性を認識させ基礎学力の定着を目指すとともに、ICT機器を活用することで生徒の主体的な学習や意欲喚起につながる授業の工夫に取り組んでいきたい。
社会	授業を意欲的に受ける態度の生徒が多く、出されたワークシートなどの課題に取り組んで、提出しようとする姿が見られる。しかし、課題の中で語句ではなく、自分の意見を文章で書かせたり、原因や理由などを考える質問に対して何を書けばいいのかわからない、苦手意識を感じている生徒が多い。また、挙手をする子も限定的になっている。	授業の板書や教科書に出てくる用語の知識・理解の部分だけではなく、授業の中で考えさせる発問を多くする。また、ワークシートの問題等に文章でまとめる課題を増やし、常に考えたり文章でまとめる意識と習慣をつけるようにする。	板書や授業の解説後のワークシートの取り組みにより、理解できたところと不十分な点を考えることができた。また、記述を増やしたことによって、考えてまとめることができるようになった。一方で、不十分なままになっている所を繰り返し学習する時間がなかなかとれなかった。
数学	小学校の内容の基礎学力の定着が不十分な生徒が多く見られる。授業中も、落ち着いて学びに向かえる状態にない生徒が見られる。一方で、集中力や好奇心を喚起させ、学習意欲を高めている生徒が見られる。知識の理解の程度や、技能の習熟の程度など、生徒個々の学習の実現状況に大きな広がりが見られる。	基礎学力を確かなものにするために、必要な場面で小学校内容までさかのぼって学びを確認する。日常生活と関連がある問題などを取り上げ、生徒が課題の解決方法の見通しをもてる時間を位置づける。応用クラスは思考の整理の時間を設け、友だちの考えと比較しながら学びの道筋を振り返る活動を取り入れる。	全員ではないが、前回の学習内容を自ら振り返ったり、既習事項の確認ができるようになってきた。授業中に前段階の既習事項をさかのぼっていくと小学内容の復習に時間を要するため、応用クラスに比べて基礎クラスの個々の学習到達状況の差はより一層広がっている。
理科	実験・観察の作業を好む意欲的に取り組む生徒が多いが、知識の定着については個人差が大きい。また、1つのことをじっくり考えるために集中して取り組むことに関しては、集中できる時間が短い生徒や、出来ないし決めつけて諦めてしまう生徒も少なくない。	・こまめにワークやワークシート等の取り組みを入れ、少しずつ知識の定着を図る。 ・集中させる時間を始めは短時間で、少しずつ長くしていくようにする。また、個人差が大きくなること(計算・作図)については、協働作業を取り入れ、さらに個別で声をかけるようにする。 ・思考力や表現力を養うため、実験の考察では自分の考えを文章でまとめさせ、くり返し添削をする。	・こまめにワーク等を取り組ませているが、知識の定着については、ワークだけでなく小テスト等を行いチェックする必要性を感じている。 ・集中させた時はなるべく20分以内に時間を設定して取り組ませた。その後、協働作業を行い、計算や作図の定着を図った。今後も継続したい。 ・考察は添削を入れて返却している。少しずつ書き方に成長が見られる生徒も出てきた。
音楽	女子は意欲的に取り組む生徒が多い。ただし、積極的に発言する生徒が少なく、歌唱の声も小さい。男子は意欲的な生徒と理解ができない生徒との差が大きい。鑑賞分野において感じたことを言葉で表現するということが苦手の生徒も多い。また、楽典は基本の理解に個人差があり定着させていく必要がある。	多くの単元を通してより多くの生徒が意見を出し合える雰囲気づくりを心掛ける。また、お互いに感じたことや伝えたいことを共有できるようにしていく。鑑賞においては、レポート等を通して表現できるようにしていく。歌唱や器楽は活動が難しい時ではあるが、しっかりと身につけられるよう丁寧に指導を行う。	授業にしっかりと取り組める生徒が増えたが、個人差が感じられる。基礎的な学習の定着も個人差に匹敵している。また、苦手なことをあきらめてしまう生徒もいる。こつこつと積み重ねが必要なことにおいては、今後も繰り返し学習していく必要がある。例えば、定期的な小テストの実施や、個別の指導が必要と思われる。
美術	・作品制作などは比較的落ち着いて取り組むことはできている。 ・自身で持ち物の管理をしたり期限内に提出物を提出したりすることが難しい。 ・作品制作する上で、粘り強く最後まで丁寧に仕上げるのが難しい。	・生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるような題材を設定していく。 ・日頃から持ち物の管理や提出物の期限が守れるよう言葉掛けを行うと共に、美術係からクラスで指示が出せるようにしていく。 ・作品制作に見通しがもてるように積極的にICTを活用し参考作品の提示のタイミングや見せ方の工夫を行う。	・各単元の作品に対する制作意欲は高まっているが、時間内に作品を仕上げるといった見通しをもって計画的に制作を進めることに課題がある。また、提出物や持ち物への意識にも課題があるので継続して言葉掛けを行っていく。 ・作品鑑賞を通して、他者の作品の良さにも気づき、考えを伝えることができる生徒が増えてきているので継続して鑑賞の時間を充実させていく。
保健体育	授業規律が確立されてきた。意欲的に取り組もうとする生徒が多く見られる。自分で課題をみつけて自主的に活動することは、まだ不十分ではあるが目標を持って取り組ませたい。	体育委員をリーダーとして育成し、自主的に活動できるようにする。授業の目的、内容を明確にして、準備、片付けを含めて生徒が自分達でできるようにする。又、新型コロナウイルス感染症予防を今まで以上に徹底していきたい。	コロナウイルス感染症に振り回された1年だった。マスクの着用やオンライン授業の延期などがあり、種目の制限など計画通りの授業はできなかったが、自主的に取り組む姿勢が多く見られたと思う。提出物の意識が低い生徒が多いので指導を継続して行きたい。
技術・家庭	【技術】落ち着いて授業に参加しているが、教科の振り返りにかける時間がやや少ないと感じる。 【家庭】クラスによって意欲的に取り組んでいる生徒にバラつきが見られる。調べ学習や個人学習になると習熟度に差が大きく生まれるため、個別指導が必要である。実生活を良くしようという意欲的な姿勢を育てていく必要がある。	【技術】ドリル的資料を基に繰り返し取り組ませる。 【家庭】指示を明確に示し、黒板、プリントに明記していく。動画を用いて視覚的に分かりやすく提示する機会を増やすとともに、自身の生活を振り返る時間を設ける。自分の食生活に興味をもって取り組み、話し合い活動により視野を広げ、様々な生活活動に触れさせる。	【技術】今年度においては総合ノートへの取り組みでは、家庭学習の時間を確保できていない。再取り組みをさせる時間がもてなかった。 【家庭】指示の明確化を徹底した。生徒の目標に対しての全体的な達成度に偏りがあるため、より具体的に説明していく。実生活をより良くしようとする姿勢が1年を通して、強くなったように感じる。
外国語(英語)	小学校の外国語活動である程度の知識はあるが、すでに苦手意識があったり書くことへの意欲が低いことが目立つ。授業では一生懸命に取り組む生徒が多く、音読練習や対話練習など意欲的に行うことができる。少人数授業の特性を活かし、基礎・基本の定着をはかり、身近な表現に慣れ親しむ授業を展開していく。	・授業の目標を明示し、ペアワークを積極的に取り入れ、やりやりの場面を増やしていく。 ・各学期にスピーチ、コミュニケーションテストを取り入れて、アウトプットの機会を設けて定着を図る。 ・長期休業を活用してスプリングコンテストを行い、書くことの定着を図る。 ・単元ごとに副教材を活用した単元テストを行い、基礎・基本の定着を図る。	【成果】スピーチ、コミュニケーションテストでは、その場面に合ったフレーズを意図的に何回も練習し覚えることで、生徒の意欲が高まった。 【課題】全体的に書くことの苦手意識があり、定着ができていない。自己表現活動で自分の考えをまとめて書く活動を増やしていく。また定期的な小テストを実施して定着を確認していく。
道徳	・学習テーマと本時の目標を提示することで、道徳的価値観を意識した授業を展開している。 ・中心発問についてグループ討議し、意見をクラス全体で共有し、様々な意見を出し合うことが定着してきた。 ・ワークシートの記述が、生徒によって差が出ている。考えがまとまらない生徒への支援が課題である。	・考えがまとまらない生徒へは、机間指導の際に補助発問を活用して支援していく。 ・感想を共有する場面を設けて、今後の生活に活かしていく場面を意図的につくっていく。	【成果】意見交換を積極的に取り入れることができた。生徒の道徳的価値観の変容をワークシートで読み取ることができ、評価に活かすことができた。 【課題】ICTを活用することで、考えが上手くまとまらない生徒への理解を促したい。資料提示や意見交換の場でのICT機器の活用を積極的に取り入れていきたい。
総合的な学習の時間	「食」というテーマに沿って、清瀬市の農業について学び、自分たちが担当する作物の育て方を調べ、農園活動に取り組んでいるところである。農園の整備に教員の人手が必要であること、活動が天候や気象条件に左右されることが課題である。当たり前のようである「食」が、多くの苦労のもとにあるということを経験することにより、食育につなげるとともに地域を知る良い機会となっている。	清瀬市の農業について、教員がレクチャーできるのは狭い視点のことではない。農園活動に関して、どの時期にどの野菜を植えるべきか教員自身の知識が乏しく、植える時期を逃したり、上手く育たなかったりすることがある。今後、地域の農家さんと連携するなど「地域の力」を活用することも視野に入れ活動をおこなうことが必要である。	今年度のひまわり農園は秋冬野菜が育たなかった。1年2学期総合が週1時間になる年は、2学期の活動が忙しくなるので農園の時間はとりこく。その分、郷土料理で「食」の活動ができたので、2年の農業体験につなげていくこととする。